

上海圖書館藏

三十六人三つ仏

柳本十九

つ田河紅葉を赤糸珠の
えじんの山まきらぬふしの

凡河内紀植

すみのわ乃松を林のくま

こまうちをふふたきり白

中納言家持

はきまくのひりや、口、そね

こねのそにありあきり降

有原幸平朝臣

月やあぬ春目やじくの春目

こつめいとういふとのあう

素性法師

おとにのこまきのまき路

のふたをひらうあす海

猿丸女史

たぐら乃紅茶ふらぬ麻の
こまきくぬら枯らふしき

中納言の兼捕

あふ坂の木乃下露はぬれより
我りころもすいひもつらかな

拾中納言の敷連

伊せの海土乃ふいらのほほふた
いふらふまてふつらふあふま

源公忠知信

このとら乃伴乃んやいんあ
この春日はつりあふまよあふま

秋宮女侍

神子さへ秋乃ゆふ邊りてぬり
きこえしあさちあはれをけり

源宗子知信

ふつとあめころりてらしくまほさり
あめとらふしあはれをいひこらふ

藤原敏行御書

秋并乃花咲よ斗にらぬ乃
尾よりしるしにぞあくらん

藤原清正

天津のちわけ井乃浦よあふら
ふとちちあおよかたきしき

藤原奥の丸

ちきつらむむらうつとキセタ乃
うにいらあふらあふら

坂上是則

三音野へのこのまははははは
右にむくあつはあふら

小大岩

大井河井やきの水なるむね
き岩浪いあふらしとらるる象

大中長能宣一

人のまゝら清土のそか大の東
あふらまゝえい物をとらるる思へ

平兼盛

昔の事と云いしとまり秋忍
の事と云いし人乃と云ふ事
紀貫之

おすまじ乃と云ふくは
あそと人よおれぬ事
作執カ

三橋のふいふ事と云ふ事
いぬ事人とありと云ふ事

海舟人

和ら乃浦に生はるも事
ありをあらたたふ事
僧に遍照

いづのこ布る公の事花
うけし時をうらみ事
紀貫之

東海のこ東乃仲事と云ふ事
あそと人をあらたふ事

小野小町

信州のさくらをうまきまのねま

さくら水あふいふとる

中絶言朝忠

あ代の初とりふをいりき

波行未いゆりかへし

藤原高光

春目すきえちりたてまき梅

つと香斗り枝子のこころ

土佐忠山今

大泉立といふ斗也まき野

山と子とえてけいふいふ

大中は頼基朝信

子目す泉地へまこねをりつひ

かへ泉山河をき母ちふく

源信朝信

ほのくとありぬ自の目け

紅葉吹たらしふたりのせ

源三三三

夏つりの玉えりあしをま
むしぬる身乃きりしり

源順

水の海うらぶ京目家まを
いよふら秋のち中ふり

藤原元輔

ちきりきふくこくし地を
すまの松山浪はくとは

藤原元真

うきうりり我の星のあは
垣根まきえぬ雪とく

藤原仲文

おやふと京人よんせんや
こころこまあつまをきぬる

土中丸見

いつくし鳴て行つて
よもの後りたか

中教カ

あき流乃吹ようひまらえぬ
たきの葉あつはなとこ風

詠十五首和評

民部卿定家

早春梅

かきふるえりやいづはまきの
あられまほふ梅のくつ花

湖上中候

えふめたき浦らふ海を
春日乃中候の立石なりわら

潤三月花

くれてみかちなるる花乃やへ
あぬうあしかすあわさ

夕あし花

ほくふてふるつせをよとの
かえなみきく
かきふる花

郭公行方

わくろくわろくなむとふ乃

寺と聲自られ郭公

行路の夏草

走と満ふみち乃とほろり

田家初秋

山田吹るつせすくささる

ゆきあひ乃わと乃れを

月前懐昔集

むしききに袖あはして

みいくとせ乃人のむまけ

里紅葉

秋乃父をこころを

千し不乃露や涙つらす

曉時雨

まら系なあわれ乃とこを

まよむ村す鳥や渡り

河千子

友千子うきつたむらじやあ

きほかん死す乃人はるるま

竹筒雪

雪折乃たけのあしくまあひ

わろくあひとさあひまき

うらつさ

庭松

うほくうてまらよらま

わきせ乃ほみの昔まき

漢水

ゆくみほいよ花を紅まき

二けころきしはるるのあまり

悲浦鐘

き乃満れぬ峯乃風

あさはるるいりあひのね

つむぎの書

乃

邊

赤

わづらひか

霜いさ

後身羽院

たむひむら

業乃

り

むせふさう

日

か

かみ代はきり

とねり

かんらせ

五十路乃

まはり
かきあ

千早根乃



いかに

いぬ

大久乃

みどり
しほ

花頃はつらじよ

いひしり

乃

しつゝまゝ

るり

々

をけ

うがひ

あぐて
きえ

せ
あわ

たぎら河くえす流泉水

あえ乃

日かろ子千尋雨景

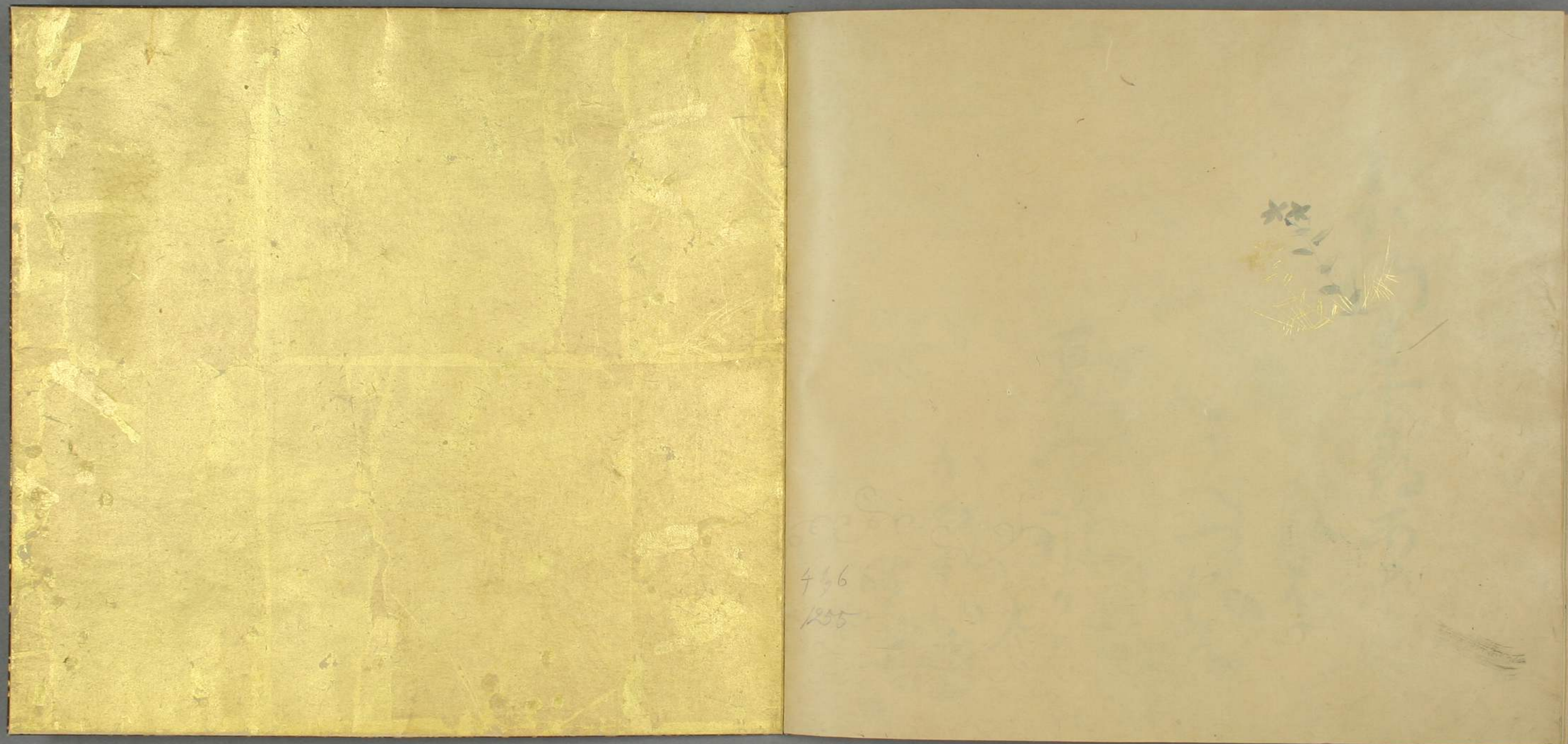
陰を

うへつは

夏為三遊り

かられは

るま



446

1255



集可書

光隆公

3
1299



先師 德位付後

寶文六年五月廿日卒
謚南宗院殿年亦七

又河海。付後志矣

祖文增口聖心。付後志矣